

【記入例】

様式第2号(第5条関係)

事業計画書

1 事業の概要

弊社は、1950年(S25年)に創業し、地元果実の栽培及び販売を行ってきた。

年々栽培面積を増加させていき、その中で2015年には(H27年)には直売所にジャムの製造設備を導入し、販売を開始した。

2023年(R5年)からはジェラートの製造販売も開始しており、売れ行きは好調。

この度の事業では、地元果実を利用したジェラートのテイクアウト、外販を可能にすることにより、商品の販路拡大につながる事業であると考えている。

2 当該事業を必要とする理由

弊社で販売しているジェラートはその場で食べられるコーンやカップ(蓋のついていないもの)タイプのものしかなかった。以前からテイクアウトして家族にも食べさせたいという声があり、この度新規に蓋つきのカップの販売することで、そのニーズに答えられるようになると思う。

また、商社からも弊社のジェラートの販売をしたいとの依頼があり、外販の販路拡大にもつなげられると考えている。

ソフト事業であるカップのパッケージデザインは、新規のデザインを起こすことで弊社の商品としてのブランドを示すことができ、さらなる宣伝につながると思う。

ハード事業である業務用冷凍庫の追加導入は、新規にテイクアウト、外販用のジェラートを製造、販売するにあたり、商品の在庫を確保する必要がある。

販売数確保のためにも追加導入は必要であると考えている。

【記入例】

3 実績と計画

〈販売計画〉

(千円)

	既存商品	新商品	合計
R7年度	10,000	0	10,000
R8年度	10,500	1,000	11,500
R9年度	11,000	2,500	13,500
R10年度	11,500	4,000	15,500
R11年度	12,000	6,000	18,000
R12年度	12,500	8,000	20,500

- ・R8年度は新規の栽培面積として0.3ha確保している。また、以降も栽培面積を増やしていく予定である。
- ・現在の製造機器の生産可能数は50％であり、余裕がある。販路拡大により販売数量を増やすことで製造機器の稼働率を上げられる。
- ・現在、外販用の商品について生産ができれば購入したいという商社が3社ある。
実際販売した際にはより多くの商社に営業をかける予定。

【記入例】

4 収支計画

収入

区 分	金 額	説 明
補助金	500,000円	ハード事業 600,000円の1/2 ソフト事業 650,000円の1/3 (上限)
自己資金	875,000円	残金(750,000円)+消費税(125,000円)
計	1,375,000円	消費税込み金額

支出

区 分	数 量	単 価	金 額	消 費 税	説 明
業務用冷凍庫	2台	300,000円	600,000円	60,000円	ハード事業
パッケージ デザイン	1式	650,000円	650,000円	65,000円	ソフト事業
計			1,250,000円	125,000円	合計:1,375,000円

注 1 支出区分には、金額がわかる見積書等(請求書、カタログ等)を添付すること

2 ハード事業には、設計図書(図面、カタログ等)を添付すること